

公益財団法人北区文化振興財団 設立30周年記念誌

これまで これからも



設立
30
周年
記念
誌

30th Anniversary
SINCE 1988

公益財団法人
北区文化振興財団

Hokutopia 10F

北区文化振興財団

〒114-8503 東京都北区王子1-11-1 北とぴあ10階

営業時間：9:00～17:00

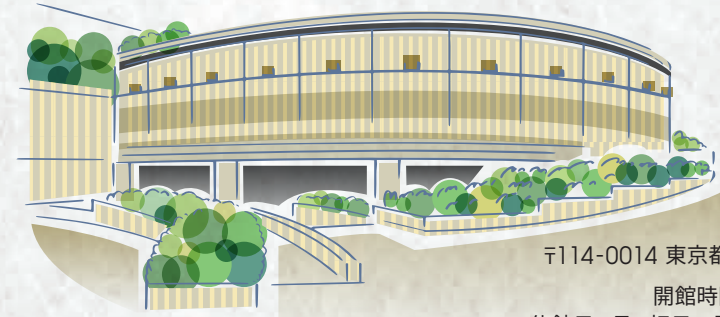
休業日：土・日・祝日・年末年始



<https://kitabunka.or.jp/>



Tabata Memorial Museum of Writers and Artists



田端文士村記念館

〒114-0014 東京都北区田端6-1-2 田端ASUKAタワー内

開館時間：10:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日：月・祝日の翌日・年末年始・展示替え等の臨時休館

<https://kitabunka.or.jp/tabata/>



Cocokita



ココキタ

〒114-0003 東京都北区豊島5-3-13

開館時間：9:00～21:00

休館日：月（月曜が休日の場合は直後の休日でない日）・年末年始



<https://kitabunka.or.jp/cocokita/>

CONTENTS

2 ごあいさつ 「これまでも、これからも。」



事業紹介 1

文化芸術の創造・継承

- 4 北とびあ国際音楽祭
 - 豆マ×知識：古楽って何？
 - COLUMN：「『芸大とあそぼう in 北とびあ』と遊ぼう」——関口直仁
- 8 ホール事業・伝統芸能
 - 「歴史深い北区にて」——橘ノ双葉
- 9 ホール事業・落語
 - COLUMN：「北区が生んだ『いつかは爆笑王』」——瀧川鯉八
 - 「みんな北区なる北とびあ」——桂竹千代
- 10 田端文士村記念館
 - 豆マ×知識：「河童忌」って何？
 - COLUMN：「同じ世界の住人たちと」——芥川奈於
- 14 舞台芸術創造支援事業
 - COLUMN：「100年後の街を見据えて」——北川大輔
- 15 北彫展
- 16 北区所蔵美術品展示



事業紹介 2

文化芸術でまちの魅力を高める

- 18 ココキタ
 - 豆マ×知識：ココキタのシンボルマーク
 - 豆マ×知識：レジデンスアーティスト
 - COLUMN：「ココキタでの4年」——下村界
- 24 (仮称)彫刻アトリエ館
 - 豆マ×知識：平和祈念像



事業紹介 3

文化芸術を暮らしの中に

- 26 ホール事業・音楽など
- 30 まちかどコンサート
 - COLUMN：「I LOVE♡北区」——中彩香能
- 31 スクールコンサート
- 32 北とびあパイプオルガン演奏会／王子カルチャーロード・ギャラリー
- 33 輝く☆未来の星コンサート
- 34 北区文化芸術祭
- 36 北とびあ演劇祭
 - 豆マ×知識：スタっちょ☆
- 38 北区第九演奏会
 - 豆マ×知識：北区第九合唱団って？
- 39 北区民オーケストラ／北区民混声合唱団
- 40 子ども文化教室
- 41 児童ダンス☆演劇教室
- 42 ほくとびあメンバーズ／北区文化情報紙(エンジョイ北区)の発行

沿革・組織図 ほか

- 44 沿革
- 45 理事・評議員・監事 一覧 / 組織図
- 46 2008～2018年の間に終了した定例事業
- 47 北区文化振興財団設立30周年記念事業
 - 区民とともに歩んだ30年、これまでも これからも

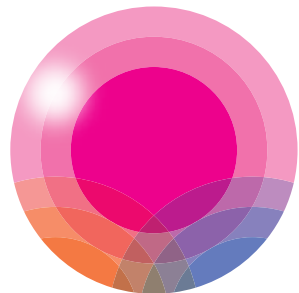
区民の心躍る色とりどりの事業を展開



事業にはそれぞれ特性があります。掲載順については特性を考慮した上のものですが、受け取る方の自由な解釈ができるものであり、重なり合っているものもあります。

多種多様、色とりどりの特性を持った事業を提供し、それを享受してもらうことで、区民の心が色鮮やかに、より一層豊かになることを願っています。感動やときめき、気づきや閃きが生まれるような、“心躍る事業”を展開しています。

文化芸術の創造・継承



- 上質な文化芸術の創造と鑑賞機会の提供
- 日本古来の芸能の継承と鑑賞機会の提供
- 地域特有の文化の継承
- 作家・団体の支援・顕彰

北とびあ国際音楽祭

- 豆知識：古楽って何？
- COLUMN：「『芸大とあそぼう in 北とびあ』と遊ぼう」——関口直仁

ホール事業・伝統芸能

ホール事業・落語

- COLUMN：「歴史深い北区にて」——橘ノ双葉
- 「北区が生んだ『いつかは爆笑王』」——瀧川鯉八
- 「みんな北区なる北とびあ」——桂竹千代

田端文士村記念館

- 豆知識：「河童忌」って何？
- COLUMN：「同じ世界の住人たちと」——芥川奈於

舞台芸術創造支援事業

- COLUMN：「100年後の街を見据えて」——北川大輔

北彫展

北区所蔵美術品展示

これまでも、これからも。



北とびあ さくらホール

北区文化振興財団は、1988年に、北区における地域文化とそれに関連する地域活動を振興するための事業を行い、区民生活の向上と個性豊かな文化都市の実現に寄与することを目的として発足しました。

当財団はこれまで、北区の文化と産業の拠点である王子・北とびあをはじめ、赤羽会館、滝野川会館等の施設において、北とびあ国際音楽祭や北彫展を代表とする音楽、演劇、伝統芸能、芸術創作などの主催事業を実施し、併せて、区民の皆さんの活動支援、北区文化芸術祭の支援、北区文化芸術活動拠点ココキタにおける子ども文化教室の開催など、多くの方々が文化芸術に触れて親しむ機会の提供を行ってまいりました。また、田端文士村記念館の運営では、芥川龍之介や板谷波山など、多くの文士芸術家の業績の紹介に努めてきました。

当財団はこれからも、文化芸術を通じた地域のプレイヤー、コンダクターとして、常に楽しみながら、文化芸術の最前線で皆さまとともに歩んでまいります。

皆さまからの絶大なるご支援を引き続き賜りますことをお願いし、ごあいさつに代えさせていただきます。



公益財団法人 北区文化振興財団理事長

依田 園子

北とぴあ国際音楽祭 オペラができるまで



【北とぴあ国際音楽祭】
1995年度より
自主制作の
バロックオペラをメインに
多様なクラシック音楽の
祭典に心躍る

北とぴあ国際音楽祭は'95年、北とぴあ開館5周年の記念事業として始まりまし。当初は「古楽」「現代」「区民参加」を柱に、ルネ・ヤリコプス、ジョルディ・サヴァール、フィリップ・ヘレヴェツェンなど、世界的な音楽家・芸術家を招いて質の高い演奏会を実施したほか、公開レッスン、小・中学校でのアウトリーチ公演など、地域に根ざした文化活動を数多く行いました。なかでも、世界的なバロック・ヴァイオリン奏者、寺神戸亮指揮によるバロック・オペラ公演が高い評価を受けたこともあり、「北とぴあ」といえば「古楽」という評価が定着しました。

11年からは、古楽を継承しつつ、より親しみやすい音楽祭を目指し、中世から現代まで「多様なクラシック」公演を実施しています。ライオンナップはバロック・オペラ、0歳から入場できる「芸大とあそぼう in 北とぴあ」、クラシックの名曲を楽しむコンサート、上野学園大学の学生による無料のロビーコンサート、一般公募から選考された団体による参加公演など。およそ1カ月にわたり、バラエティに富んだプログラムで北区の秋を彩っています。



A: モンテヴェルディ《ウリッセの帰還》〔2018.11.23・25〕© K. Miura
B: モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》〔2016.11.25・27〕© K. Miura
C: パーセル《妖精の女王》〔2015.12.11・13〕© 宮内勝
D: M.-A. シャルバンティエ《病は気から》〔2012.11.23・25〕© K. Miura

知識

古楽って何？

主にバロック時代以前の音楽のこと。一般にクラシックの名曲として知られているのは、古くてもバッハなど18世紀以降の作品ですが、実はそれ以前の音楽には、古い時代にありながら現代人にとって斬新な音楽や、癒やしの音楽が多く、古楽は知られざる名曲の宝庫なのです。

また、バロック時代以降の作品でも、作曲当時の状態に復元した楽器を使用し、作曲家の考えや当時の演奏習慣などに深い研究を重ね作品の本質に迫った演奏をする、という考え方も含みます。

「レ・ボレアード」もこのような考えのもと、モンテヴェルディからモーツァルトまで様々な時代・国の作品を現代に蘇らせています。現代のオーケストラにはない珍しい楽器が登場することもある！

稽古風景



貴婦人の肖像〜ヴィオラと歌で綴る
フランスルネサンス恋愛歌曲
〔2017.12.1 旧古河庭園・洋館〕

ベートーヴェン、シューマン、ショパン
が愛したピアノたち
〔2017.11.22〕



シェイクスピアの音楽
とイギリス古謡の世界
〔2016.11.20〕



上野学園大学
ロビーコンサート
〔2015.12.11・13〕

サラウンドシアター
冬のかがり火
〔2015.11.29〕



會田瑞樹
ヴィブラフォン
ソロリサイタル Vol.3
〔2014.10.31〕

名器で聴くマエストロ・シリーズ
弦の道
〔2009.11.3〕



神秘の国に誘われ
〜ミャンマー伝統音楽の楽しみ〜
〔2009.10.31〕

継続的に行っているバロック・オペラの上演は、全国的にも注目されている取り組みです。指揮の寺神戸亮と、同音楽祭から生まれた古楽オーケストラ「レ・ボレアード」の演奏に加えて、オペラ演出家のみならず演劇界の演出家をいち早く起用するなど、毎年話題性のある公演を制作しています。

07年のモンテヴェルディ《オルフェオ》は、観世流能楽師・野村四郎郎による演出で、第6回佐川吉男音楽賞を受賞。また、12年に上演したシャルパンティエ《病は気から》、16年のモーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》はそれぞれ第10回、第14回三菱UFJ信託音楽賞奨励賞を受賞しました。

さらに、15年のパーセル《妖精の女王》では演劇界で世界的に高い評価を受ける宮城聰の演出と、バロック音楽界の女王エマ・カークビーの出演が話題となりました。18年にはモンテヴェルディ《ウリッセルの帰還》を取り上げ、オペラ初演出となった気鋭の演出家・小野寺修二によるシンプルかつ奇想天外な仕掛けを伴う演出で好評を博しました。

0歳から入場できるコンサート「芸大とあそぼう in 北とぴあ」は、東京藝術大学演奏芸術センターの制作によるオリジナルストーリーのコンサート。「はじめのクラシックコンサート」として、子どもたちが劇場に来る楽しさや音楽に親しむを持ってもらう絶好の機会となっています。また、上野学園大学学生による無料コンサートは北とぴあのエントランスロビーが会場で、通りすがりに立ち止まって聴くなど、様々な楽しみ方ができます。そのほか、「チャイコフスキー偉大な芸術家の思い出に」や「ベートーヴェン、シューマン、ショパンが愛したピアノたち」など、クラシック音楽の名曲を楽しむコンサートや、より身近に音楽を感じられる小ホールで気鋭の現代音楽ユニット「低音デュオ」やドビュッシーの没後100年を記念した「ドビュッシーの午後」公演を実施するなど、様々な音楽との出会いの場を提供しています。

北

区文化振興財団の設立30周年、誠にありがとうございます。毎年出演させていただいている「芸大とあそぼう in 北とぴあ」シリーズがここまで続いてきたこと、そして大勢のお客様に来場して頂いていることは、毎年の公演をサポートしてくださる財団やホール職員の皆様のおかげだと、本当に有り難く思っております。

大人が「〇〇を楽しんでほしい」「□□から△△を学んでほしい」と思ってコンサートを用意したとしても、子どもは意外な点に「楽しさ」や「学び」を見つかることがあります。そんなとき、大人が正しいと考える道筋についつい誘導したくなりますが、その瞬間に子どもに湧き上がった素直な感覚こそ、子どもが音楽表現から「美」を感受したり、自己表現することにおいて、とても大切なものであるように思います。「芸大とあそぼう in 北とぴあ」シリーズは、企画・台本・演出の大石泰先生（東京藝術大学演奏芸術センター）が中心となり、東京藝術大学の音楽学部、美術学部の卒業生に加えて、歌手や俳優、講師の方など、異なるジャンルの方が一緒にコンサートを作ります。コ

ンサートには「理解が難しい楽曲」や「専門性の高い要素」、「異色の組み合わせによる違和感」など、一般的な「こども向けコンサート」では排除されがちな要素が、敢えて盛り込まれているのですが、そこには「誰かが与えた『解釈の正解』」を探るのではなく、自ら興味を持ち学ぶことで、新たな美しさや、新しい解釈を発見する力を子ども達に身につけて欲しい」という願いがあります。このようなコンサートの価値や公益性を認めて支援を頂くことで、私も子ども達と同様に様々なことを実験し、お客様のためにどんな演奏や演技をするべきなのか、自分の答えを探しつつながら、このコンサートとお客様に育てて頂きました。これは表現を志す人間としての喜びです。もちろん、終演後のロビーで頂く「たのしかった!」「子どもが2歳の時から毎年来ています!」「好きなコンサートなので、これからも頑張ってください!」というお客様のご感想が何より嬉しいのは言うまでもありません。

このコンサートをきっかけに、これからも大勢の子ども達が芸術文化に触れ、心豊かな人生を拓いてゆくことを心からお祈りしております。

COLUMN

「芸大とあそぼう in 北とぴあ」と遊ぼう



せきぐち なおひと
関口直仁
声楽家

芸大とあそぼう in 北とぴあ



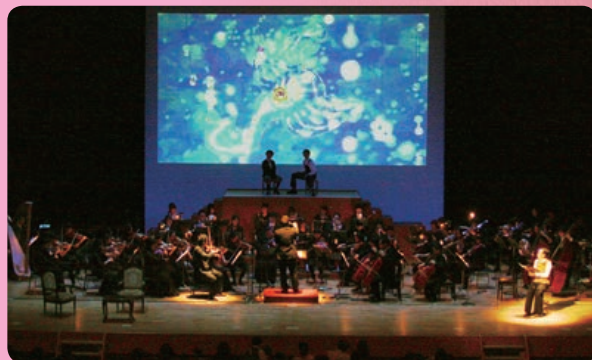
むかし、むかし、夢のなかで…〔2015.11.21〕



サンタクロースのお菓子な冒険〔2013.11.16〕



さすらいのギョウ太郎、また旅日記〔2014.10.25〕



注文の多いオーケストラ〜宮沢賢治エトセトラ〔2016.11.12〕



知らなきやもつたいたい！ 日本の伝統芸能 の魅力！

【ホール事業・伝統芸能】 1988年度
●歌舞伎・雅楽・能・狂言・邦楽・文楽・日本舞踊など



日本舞踊家集団 弧の会「コノカイズム」〔2018.10.13〕

敷居が高いと思われるが、日本の伝統芸能に触れるきっかけとなるような公演を毎年実施しています。「松竹大歌舞伎」は、人気歌舞伎俳優が登場して熱演を披露。毎回多くのファンを魅了しています。「はじめて楽しむ文楽」は、人形遣いの吉田幸助（現・吉田玉助）による作品の解説や、文楽についてのトークとともに本格的な文楽公演を楽しんでもらうという趣向で、17年には文楽三大名作のひとつ「義経千本桜」の「河連法眼館の段」を上演しました。日本舞踊では、流派を超えた男性舞踊家集団として注目を集めている「弧の会」が、18年にレクチャー・デモンストラーション公演と「コノカイズム」と題した本公演の2公演を実施。日本舞踊をダイナミックに進化させた斬新な舞台で客席を沸かせました。このほかにも、能、狂言、伝統音楽など古くから受け継がれてきた日本の文化を紹介しています。



はじめて楽しむ文楽〔2017.10.27〕



第11回 飛鳥山薪能〔2013.10.18 飛鳥山公園内野外舞台〕

下町風情残る北区には、 落語愛好家が多い！

当財団が主催する落語会は大きく3つあります。通算30回目を迎えた「きたくなるまち区民寄席」は、名実一体の真打が登場！毎年会場を大いに沸かせています。「北とびあ若手落語家競演会」は、二ツ目6人がとおきの一席を披露、観客による投票で「北とびあ大賞」を決する落語会です。14年に新たに始まった「ほくとびあ亭シリーズ」は、旬な二ツ目の斬をお手ごろな価格で楽しめる落語会で、出演する二ツ目にとっては芸を磨く貴重な本番の場です。

75×75cmの特大サイズ！！



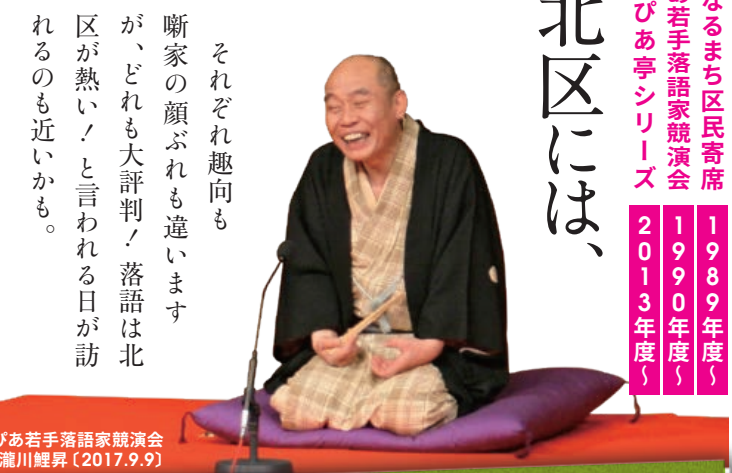
楽屋根多帳（ネタ帳）と特大座布団



第29回 北とびあ若手落語家競演会／大賞：柳亭市弥〔2018.6.16〕



ほくとびあ亭 1000円落語〔2016.7.4〕



第28回 北とびあ若手落語家競演会／ゲスト：瀧川鯉昇〔2017.9.9〕

【ホール事業・落語】
●きたくなるまち区民寄席
●北とびあ若手落語家競演会
●ほくとびあ亭シリーズ
1989年度
1990年度
2013年度

それぞれ趣向も、断家の顔ぶれも違います。が、どれも大評判！落語は北区が熱い！と言われる日が訪れるのも近いかも。

COLUMN

歴史深い北区にて

この度は30周年誠におめでとうございます。北とびあは、私が小学校4年生の時に設立されました。工事中、友達と北とびあが出来上がるのを楽しみにしていたのを覚えています。大人になった今、地元の落語会に出演できることは感慨深く本当に嬉しいものです。北区は、江戸時代より落語に大変縁があります。歴史ある北区で、これからも沢山の落語が演じられ、新たな歴史が生まれることを願っております。



橘ノ双葉
'05年 三代目橘ノ国入門
'09年 ニツ目昇進

北区が生んだ「いつかは爆笑王」

師匠である瀧川鯉昇に入門を許されてから、12年の歳月を北区民として過ごしました。王子に3年、十条に9年。お客さん投票で優勝者が決まる北とびあ落語競演会にも、近所の方々、行きつけの飲み屋の常連さんがたくさん駆けつけてくれました。にもかかわらず、惨敗したのはいい思い出です。公正な選手権である証拠です。家賃を滞納しがちであった私のために大家さんも駆けつけてくれました。取り立てに來たのではないと信じています。今はもう北区を離れましたが、いつか北区に錦を飾れるよう立派な落語家になりたいと思っています。



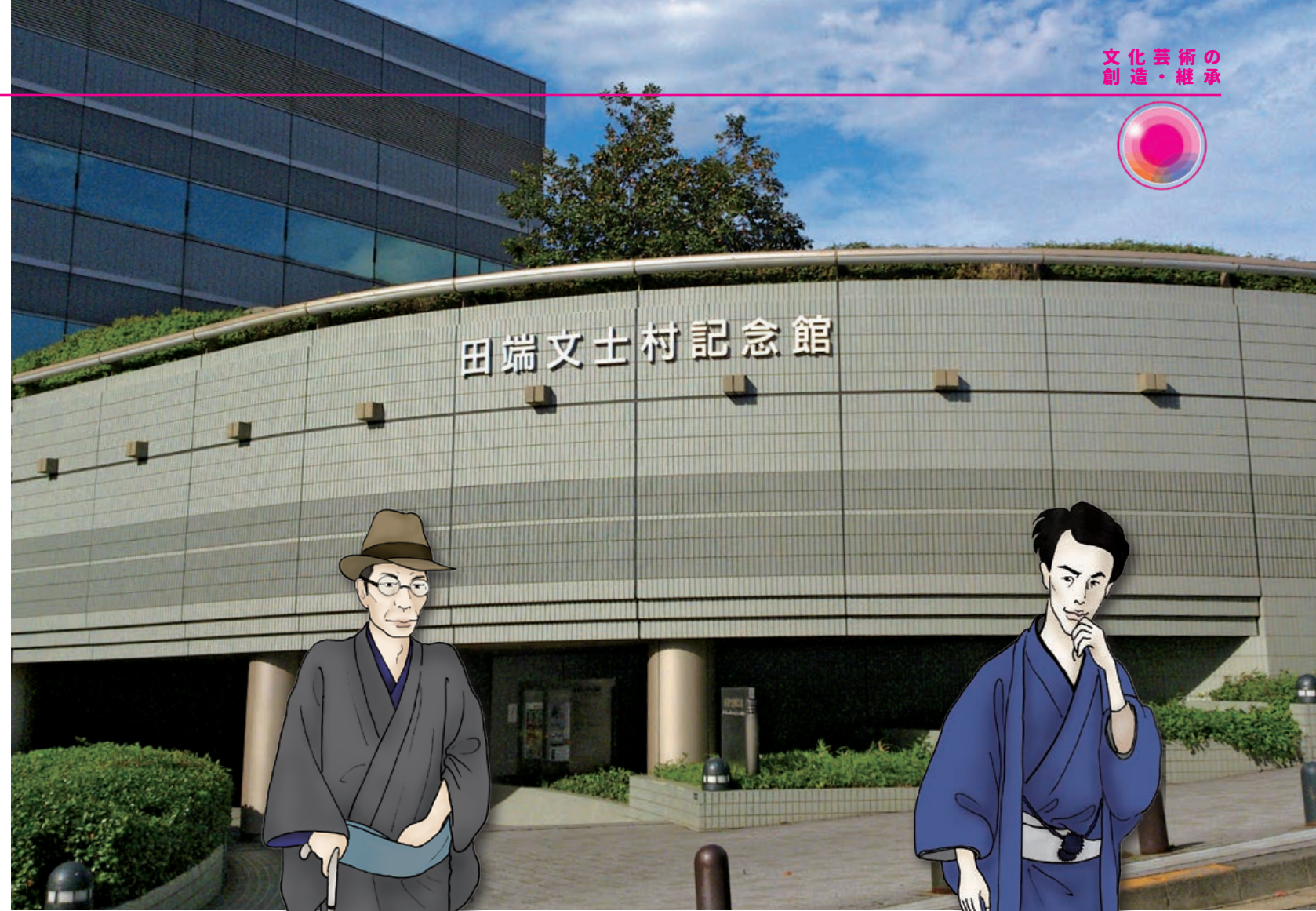
瀧川鯉八
'06年 瀧川鯉昇に入門
'10年 ニツ目昇進

みんな北区なる北とびあ

北区文化振興財団様、30周年おめでとうございます。北区に住んでもう12年目。最近引越したのですがやはり住めば都、北区が落ち着くので区内で転居しました。北とびあではよく落語会を開催して頂いて我々としてはとても嬉しい限り。中でも私が前座の時よりお世話になっているのが千円落語。二ツ目と呼ばれる若手落語家が4人出て千円。150席が毎度完売というのは凄い！若手の会でこんなに入る会は見たことがない。これは振興財団さんの尽力に他なりません。これからも北区民として北区及び、振興財団さんの末長い発展を願っております。



桂竹千代
'11年 桂竹丸門下 楽屋入り
'15年 ニツ目昇進



田端文士村記念館

室生犀星

芥川龍之介

芥川龍之介の結婚と生活展

(2017.10.7～2018.2.4)

《文豪ストレイドッグス》コラボレーション展

(2017.10.7～2018.1.22)

島田雅彦講演会

来場者からの感想

展示室の様子

オリジナルグッズを求める来場者

チラシ

初公開した「芥川龍之介のラブレター」(個人蔵)

初公開した「結納品目録」(個人蔵)

木登りをする龍之介

書斎

芥川龍之介 田端の家
復元模型

1914年10月芥川家が田端に転入しました。龍之介は一時期、鎌倉・横須賀で過ごすも、以後1927年7月に自死するまでを当地で暮らし、数々の名作を生み出しました。館内には1927年当時の芥川家を1/30スケールで復元し、解説映像・解説シート「ココミテシート」とともに常設的に展示しています。2023年には、旧居跡(一部)に芥川龍之介記念館(仮称)が開設される予定です。

明治末期から昭和初期にかけての田端は、芥川龍之介、室生犀星、小杉放庵、板谷波山をはじめとする文士・芸術家が暮らし、集った場所でした。当館では、田端が「文士芸術家村」と称され、発展した時代を伝えるため絵画や彫刻、原稿、書簡などの資料を収集し展示しています。

15年には、多目的ホールを常設展示スペースとして拡張し、リニューアルオープンしました。展示物の目玉として製作したのが「芥川龍之介田端の家」復元模型です。

一方、これまでの展示スペースは企画展示スペースとなり、年に3回の展示替えを行っています。17年の「芥川龍之介の結婚と生活」展では龍之介から妻・文に宛てたラブレター(個人蔵)を初公開したほか、16年春には田端駅と、同年秋には漫画「文豪ストレイドッグス」とのコラボ展を開催し、全国から多くの方が来館しました。

【田端文士村記念館】1993年度
作家と芸術家が集った
文化の香り高さまち。田端



常設展示スペース



企画展示スペース

開館25周年記念事業

庄司達也、伊藤一郎、鈴木暁世、能地克宜による
芥川龍之介シンポジウム〔2018.11.4〕



宮坂寛による「基調講演」



文士村カルテットによる
「オープニング演奏会」



開館25周年企画展チラシ

夏休みイベント・ワークショップ



夏休み親子向けワークショップ豆本作り〔2011.8.7〕



キーワードラリーのワークシート

夏休みキーワードラリー〔2017.7.15～8.31〕

参加者の作品

「唯 ぼんやりした不安」。
幼少の頃、曾祖父・龍之介に対する
印象は、この一言に尽きる。

どこで誰に教わったのか、さすがに覚えてはいないけれども、この言葉だけは、強烈に、頭にこびりついてた。

小学校では「蜘蛛の糸」を題材にした授業で、龍之介の作品を学んだと記憶している。そこで私は、お釈迦様が蜘蛛の糸を切る意味をポロリと学習する程度で、自分がその作品を書いた者の血筋を継いでいる、などということには、勿論知らん顔をしていた。そして、その重大さに関心を持つこともなかったのだ。

その後、美術学校で過ごした十年ほどの間も、他愛ない毎日を送ってきた。

このように些か呑気すぎた私だが、大人になるにつれ、さすがにそう言ってもいられなくなってきた。

子供の頃から頭にあった、あの言葉の本心を知れば知るほど、龍之介の足跡が重く伸び掛かり、私はなんとフラフラとこの世を生きてきたのだろう……という思いを抱え出した。そして

ついに、自分も芥川家の一員だと自覚するようになったのだ。

さらに、昨年、今年と、田端文士村記念館による企画「河童忌」に参加する運びとなり、より一層気を引き締めた私は、多くの文学ファンと触れ合う機会を持つこととなった。龍之介の作品そのものや、それこそ、生き方に共感されている方とも出会い、かけて頂く言葉の一つ一つが、とても支えとなった。私よりも熱心で詳しく、文豪・龍之介を愛している方々は、眩しく美しく見えた。

自己の思いや役目を改めて肝に銘じるきっかけを作った、田端文士村記念館には、とても感謝をしている。同時に、田端に根を下ろし、文学や芸術に向かい魂を削っていった作家たちを、これからも追い続けて頂きたいと深く感じている。

「唯ぼんやりした不安」。

私はこの言葉の意味を、心の中でいつも考え、恥じることなく生きていくのだろう。

龍之介を見守って下さる方々と共に、この先ずっと。

COLUMN

同じ世界の
住人たちと

あくたがわ な お
芥川 奈 於
芥川龍之介曾孫、
文筆家・イラストレーター



田端ひととき散歩 講義の様子

田端ひととき散歩 散策の様子

「18年には開館25周年をむかえ、
「田端に集まる理由がある」と題
した企画展を周年を通じて明治、
大正、昭和と3つの時代にわけ
て実施し、さらに文学研究者を
招いた「芥川龍之介シンポジウ
ム」を行いました。

また、夏休み期間には親子
向けのワークショップやクイズ
ラリーなどを実施するほか、学
校への出張講座、田端の小中学
校で構成される「田端学びの郷
オープンスクール」に参加する
など児童に対する事業も展開し
ています。

田端のまちは、第二次世界大
戦の城北大空襲により壊滅的
な被害を受け、大半の住居が焼
失し、残念ながら当時の面影は
残っていない状況です。そこで、
当時の文士芸術家が住んでいた
ことが分かるように、13年より
芥川龍之介旧居跡など5箇所
に標示板を設置しました。

開館当初から継続している催
事には、当館研究員による文学
散歩「田端ひととき散歩」や、著
名人、研究者、遺族による講演
会があり、毎回多くの文学・美
術愛好家が集まっています。

都心に近く閑静な住宅が広
がる現在の田端は、近年の大規
模な区画整理で町並みが大き
く変わり、これからも徐々にそ
の姿を変えていくことでしょう。
芥川をはじめ、多くの田端文士
芸術家が暮らした歴史を絶やす
ことなく、後世に伝えることが
使命だと考えています。

マ豆メ
知識 「河童忌」って何?

「河童忌」とは、芥川龍之介の命
日である7月24日のことを指します。
(また夏の季語ともなっている一般
名詞です。)芥川が生前好んで「河童」
の絵を描き、小説の題材にも「河童」
を取り上げたことが、その由来と考
えられています。1927年の芥川没後
翌年から、1943年まで近親者や文学
仲間を中心に芥川龍之介を偲ぶ会が
田端の料亭・天然自笑軒で行われて
いました。当館では、芥川作品が今も
多くの読者を惹きつけ、芥川との心の
語らいを求めている人が多いと感じ、
2017年、没後90年を契機に遺族の協
力を得て「河童忌」に催事を実施して
います。



河童忌～劇団文化座朗読劇「杜子春」
ほか〔2018.7.24〕



河童忌～芥川龍之介墓所
ガイドツアー〔2017.7.24〕



芥川龍之介旧居跡の標示板

芥川龍之介墓所、巣鴨・慈眼寺



【舞台芸術創造支援事業】
2014年度

つかこうへいが蒔いた 演劇の種を开花させる

舞台芸術のなかでも演劇に焦点を当て、公演機会や稽古場の提供、広報など演劇活動のサポートをしています。支援する団体は北区拠点のものに限らず、新進気鋭の団体から有名俳優が所属する老舗劇団まで、区民にとっては、舞台芸術の新たな魅力の発見や未体験の驚き、感動に出会える場となっています。

北区はつかこうへいが日本演劇界を盛り上げたいと尽力したまち。その遺志を引き継いだ事業です。

北区つかこうへい劇団が解散した2011年に劇団員有志が結成した★☆☆北区 AKT STAGE「飛龍伝」〔2014.8.15・16〕



石原プロモーション「希望のホシ」 演出：大浜直樹
〔2015.10.10～18〕



劇団東京乾電池「長屋紳士録」 演出：角替和枝
〔2017.8.18～20〕



ぬいぐるみハンター「ゴミくずちゃん可愛い」
演出：池亀三太〔2018.3.3～4 飛鳥山公園内野外舞台〕

【北彫展】 1989年度 日本最高峰の彫刻が 北区に集結



第30回 北彫展 記念展〔2018.5.10～20〕

北区在住の彫刻家・川崎普照（日本芸術院会員）に出品者の選定・企画を依頼して、北区ゆかりの彫刻家を中心とした彫刻展を開催することが始まりです。無料で芸術性の高いプロの彫刻作品を公開し、彫刻芸術を身近に感じていただくことで、北区の芸術文化向上を図ります。

毎年ゴールデンウィーク明けの気候の良い時期に、5日間に

わたり北とびあ・展示ホールで開催しています。

第4回展からは被災者支援のためのチャリティコーナーを設けて出品者等による小品、アクセサリー等販売し、売上の一部を義援金として北区の日本赤十字社を介して被災者に届けています。出品者自ら作品や彫刻の技法等について解説するギャラリートークも毎回好評で、彫

刻芸術に親しみを感ずる区民が年々増えています。

18年5月には会期を延長し10日間にわたり30回記念特別展を開催しました。現役の作家のほかに、長崎の「平和祈念像」で有名な北村西望をはじめ生前北区で活躍した物語作家の作品も展示し、大勢の来場者でにぎわいました。



第30回 北彫展 記念展 ギャラリートーク〔2018.5.19〕

COLUMN

一〇〇年後の 街を見据えて



きたがわ だいすけ
北川大輔
脚本家・演出家・
前王子小劇場芸術監督

は今、北区や、王子地区、といった地域社会に対して何ができるのかを考え続けています。それは来るべき超少子高齢化社会に対して、文化や芸術は何ができるのか、という私達世代に課された大きな問題だと思っています。

未だこれだ、という確信が持てているわけはありませんが、敢えて誤解を恐れずに言うのであれば、「100年後に街が何を持っているかを作る」ことだと思います。文化は「根付く」という言い方をするように、一朝一夕でどうにかなるものではありません。そして、今現在私達も地域の皆さんとご一緒するにあたって、その難しさを痛いほど感じています。しかし同時に、北区のもつ「伝統を活かしつつ新しいものを受け止める度量の広さ」に、私達はこれまで多く助けられました。この地でたくさんの挑戦をさせていただき、都度ここでしかできないもの、ここで生まれるものの尊さを学んできました。北区オリジナルなものが数多く生まれ、その積み重ねが100年後の北区を少し豊かにする、そのほんの一部でもお力添えができたのなら、こんなに嬉しいことはありません。

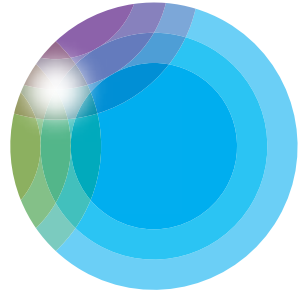
王子小劇場が開館して今年で20年になります。北区の文化の一端を担いたいという自負のもとにこれまで運営してまいりました。そして、北区文化振興財団の皆様とはここ数年、共催事業などで様々な形でお力添えをいただいています。ここ数年、文化や芸術に対する期待の高まりを感じています。2014年・2018年と、会場を王子地域全体に広げた演劇祭を開催しました。その際「街を演劇にする」という目標を掲げ、地元の皆さんからも物心ともにたくさんのお力添えをいただきました。その時ご支援いただいた皆さまや、実際にご来場になった方からの声を聞いて、私達



脚本・演出：北川大輔
「未開の議場 北区民版」
とある町の会議室を舞台にした演劇
〔2016.8.26～9.4〕

事業紹介 2

文化芸術でまちの魅力を高める



- 文化芸術活動拠点の整備と地域の魅力発信
- 旧跡の活用

ココキタ(東京都北区文化芸術活動拠点)

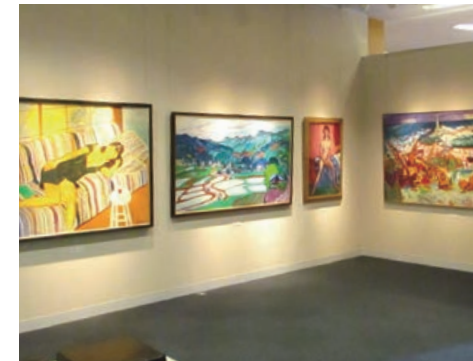
- 豆知識：ココキタのシンボルマーク
- 豆知識：レジデンスアーティスト
- COLUMN：「ココキタでの4年」——下村界

(仮称)彫刻アトリエ館

- 豆知識：平和祈念像



アートギャラリー第2室からは飛鳥山公園の景色も楽しめる



アートギャラリー第1室



アートギャラリー第1室



アートギャラリー第2室



アートギャラリー第2室

飛鳥山公園内のアートのスポット 四季折々の自然と、 美術・工芸品の融合

【北区所蔵美術品展示】 2009年度

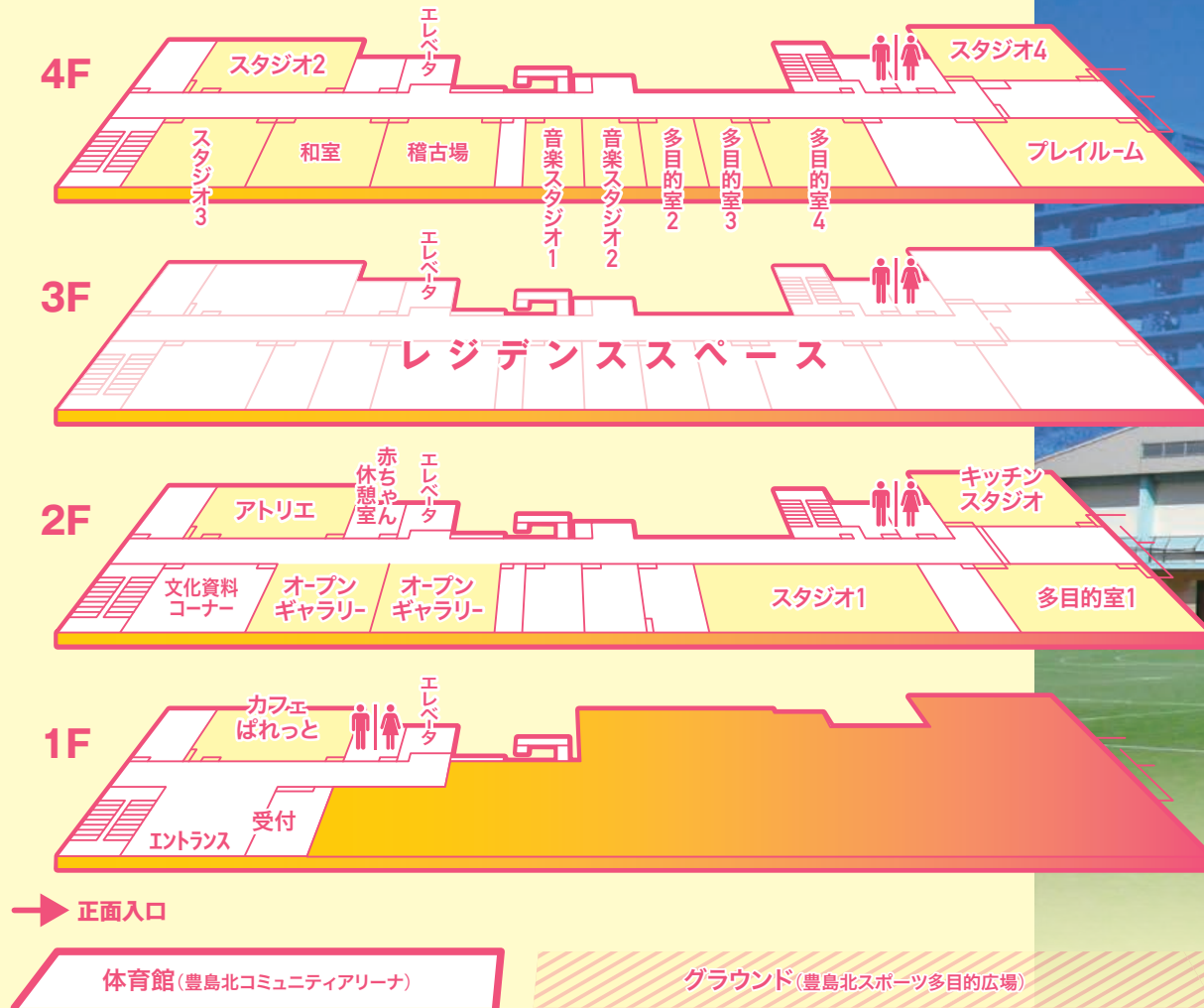
10年3月、北区飛鳥山博物館のリニューアルオープンに伴い、飛鳥山アートギャラリーが作られました。第1室では、赤羽モナルパルナの画家・大野五郎や、ループル美術館の西洋名画の模写シリーズを得意とした画家・高田力蔵の作品などを展示。第2室では現在も活躍中の鍛金家で、重要無形文化財保持者(いわゆる人間国宝)の奥山峰石の作品を常設的に展示しています。第2室の窓からは飛鳥山公園が一望でき、その景色とともに美術工芸品が堪能できる空間となっています。



奥山峰石
「打込象嵌壺《枝垂れ桜》」



Cooperation【協力・協同】 + Communication【伝える】 + 北区



【ココキタ(東京都北区文化芸術活動拠点)】 2015年度～

みんな集まれ! 文化とアートの拠点に

マ豆メ **ココキタのシンボルマーク**

知識 様々な分野の文化芸術がグルグルと混ざりあい、キューブの外へと無限に広がっていくイメージを表しています。

北区の花「つつじ」、若さを表す「萌木」、荒川を表す「縹(はなだ)」という日本の伝統色を使い、全体として「花」に見えるよう配色しています。

3階はレジデンスアーティストのフロアになっており、様々なジャンルで活躍するアーティストたちが自室で制作に打ち込んでいます。1階には「カフェぱれっと」があります。パレットの形をした大テーブルがシンボル。おふくろの味を感じさせるランチを求めて地域の人たちがココキタで練習している人たちが毎日賑わっており、皆の交流の場ともなっています。

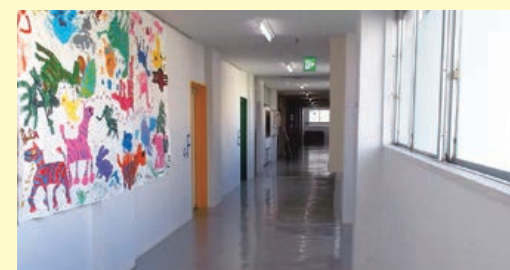
閉校した豊島北中学校の校舎をリニューアルして、15年4月に「東京都北区文化芸術活動拠点ココキタ」がオープンしました。

館内の白い壁とまっすぐに伸びた廊下には、学校だった頃の面影が残っています。2階と4階はレンタルスペースとして時間単位で貸し出しています。

もともとは教室だった場所に、防音設備やダンス用の床などを備えたことで、音量や足音などを気にすることなく練習に打ち込めると好評です。

ドラムやキーボードを備えバンド練習に適した「音楽スタジオ」、演劇やダンスのために大型鏡や音響機材を備えている「スタジオ1」「4」、美術などの展示ができる「オープンギャラリー」など、多種多様な17のスペースがあります。

登録をすれば区民だけでなく誰でも利用でき、第一線で活躍するアーティストやクリエイターから趣味で集まる地域のグループまで、幅広い世代の人たちが音楽や演劇、ダンスなどの練習に励んでいます。また、中学生・高校生の文化芸術活動を応援するため、中高生には無料でスペースを貸し出しています。





HINOKO スプーンづくり (2018.2.17・18)



大道芸パフォーマンス (2018.2.17・18)



コスプレ撮影会 (2016.2.20)



万華鏡作り (2016.9.10・11)



クリエイターズマーケット (2016.9.10・11)



カフェばれっとランチ (2016.2.20・21)



恐竜のタマゴづくりワークショップ (2018.2.17・18)



ジャンボおえかき (2016.9.10・11)

**誰でもアート体験
ココキタまつり**

ココキタのレジデンスアーティストやココキタを利用している人たちの発表の場として、毎年ココキタまつりを開催しています。地域の人たちに文化芸術に触れてもらいたい、ココキタで活動しているアーティストを知ってほしいことから、ワークショップや公演などすべて無料で開催しています。

16年2月のココキタまつりでは、コスプレ大会も開催し、アニメやゲームの登場人物に扮したコスプレイヤーたちがココキタ内を行き交いました。

16年9月は隣接する豊島五丁目団地の祭と同時期に開催され、屋外での大道芸パフォーマンスが大好評！また東京大学の折紙サークルがやつてきて、とても紙でできているとは思えない匠の技を見せる展示とワークショップを行いました。

18年2月は、レジデンスアーティストのイベントがメインに。北区AKTSTAGE

による演劇「熱海殺人事件」、劇団ドクトベツバズによる小学生対象の「西洋竹馬パレード」、アクロスザユニバースによる幼児対象の「リトミック体験」、HINOKOによる「錫で作るスプーンづくり」、スズキセノアーツによる「理想のキタクなる街をつくらう」ワークショップなど、それぞれの得意分野を体験してもらう内容でした。オープンギャラリーではゲストの造形アーティストによるダンボール恐竜の展示とワークショップがあり、ギャラリーに立ちほだかる恐竜の前で歓声が上がっていました。

そのほかにも第1回からの企画としてココキタ利用者が日頃の成果を発表する「リレーライブ」、大きな白い紙に思い思いに絵が描ける「ジャンボおえかき」、カフェばれっとでのランチ営業などを継続して開催してきました。

小さい子どもからお年寄りまで誰もがアートに触れて楽しめる「ココキタまつり」を目指しています。

黒板アート

1階のカフェばれっとには壁一面の巨大黒板が設置されています。ここにチョークで絵を描く「黒板アート」は、区内の中学校・高校の美術系の部活に声をかけて制作してもらっており、デザインから制作まですべて中高生が行っています。これまで、東京成徳大学中学・高等学校美術部、成立学園中学・高等学校漫画研究会、都立飛鳥高等学校美術部、都立王子総合高等学校イラスト部の皆さんが壮大な黒板アートをリレーでつないできました。

絵が変わるごとにカフェの雰囲気が変わり、お客さんたちの目を楽しめています。



都立飛鳥高等学校美術部 (2017.2.17)



東京成徳大学中学・高等学校美術部 (2016.2.20～8.12)



成立学園中学・高等学校漫画研究会 (2016.9.10～2017.7.31)



都立王子総合高等学校イラスト部 (2017.8.2～)

マ豆メ
知識

レジデンスアーティスト

いわゆる「アーティスト・イン・レジデンス」は、施設が芸術家を招聘し、そこに居住しながら制作の経過から成果までをその地域や施設に還元する試みとして日本各地に広がりつつあります。ココキタの場合は3階のフロアがレジデンスアーティストのスペースとなっています。演劇、パフォーマンス、金属工芸、舞台美術など様々なジャンルの

アーティストが居住こそしていませんが、日々、制作に打ち込むためのアトリエとして3年契約で使用しています。

アーティストたちは自室にこもっているばかりではありません。地域の子もたちや大人たちに開放してワークショップ等を実施することもあります。ぜひそうした機会に彼らのアトリエを訪ねてください。

ココキタの「コロ」

ココキタがどんな場所なのかPRするため、様々なジャンルのイベントやワークショップを実施してきました。

グラウンド（豊島北スポーツ多目的広場）に大型スクリーンを設置しての野外映画会や、ココキタ全館を使った脱出ゲーム「ココキタなどとき七不思議」、アフリカンアートのペイントワークショップなどで、幅広い年齢層の人たちがココキタを訪れました。障がいのある人もない人も一緒に参加する



アフリカンペイントアートワークショップ〔2017〕

ダンス・ワークショップ「音である、からだで話そう」障害のある人もない人も、からだで、声で、太鼓で、表現してみよう」や、知的障がい等のある人らが描いた感性豊かな作品を展示した、「感性の作品展」ひとりひとりの才能に目をむける。』も注目を集めました。

更なるステップアップをめざして

文化芸術に興味がある、また将来その道に進みたいと思っている中高生を応援するため、レベルアップワークショップと題して一歩踏み込んだ内容のワークショップを年に3回行っています。楽器の持ち方から始まりアンサンブル（合奏）まで仕上げる吹奏楽ワークショップや、プロのマンガ編集者によるワークショップ「ココキタ漫画塾」一週間でダンス作品の創作から上演までを体験する「ストリートダンスワークショップ」など、様々なジャンルで開催しています。技術を習得するだけでなく、プロのア티ストと作品を作り上げていくプロセスの中で、中高生たちが将来を考えるきっかけにもなっています。



感性の作品展
〔2016.11.15
～12.25〕

音であそぼ、からだで話そう〔2018.1.20ほか〕



脱出ゲーム〔2016.9.3-4〕



ココキタ漫画塾〔2017.2.18ほか〕



吹奏楽強化ワークショップ〔2017.8.28〕



ストリートダンスワークショップ〔2018.8.17ほか〕

北区版 アーティストバンク

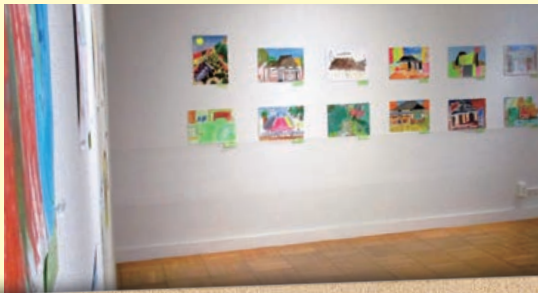
アートや芸術活動を行っているココキタ利用者が地域の文化芸術活動にも参加・協力してもらえよう、2018年より「アーティストバンク」制度を開始しています。登録しているアーティストは16組（2018年10月現在）

で、ジャンルは音楽、演劇、美術など多岐に渡ります。ココキタで活動していることなどを条件に、地域で活動したいと思っている若手のアーティストを募り、区内のお祭りや文化活動に派遣しています。

きたくなるまち絵画展

14年まで王子カルチャーロード・ギャラリーにて展示されていた「きたくなるまち水彩画展」等の公募展を継承し、ココキタ2階オープンギャラリーを会場に「きたくなるまち絵画展」を開催しています。

北区内のお気に入りの場所をテーマにした絵画展で、幼児の部、小学生の部、一般の部の3部門で募集しています。親子、兄弟での出品もあり、桜の飛鳥山公園、初夏の浮間公園、紅葉の旧古河庭園など区内四季折々の題材が、来館者の目を和ませています。



きたくなるまち絵画展〔2016.1.15～2.14〕

COLUMN

ココキタでの 4年



しもむら かい
下村 界
劇団ドクトペッパズ代表

き、子どもたちから大変好評を頂きました。

2年目の夏には大道芸の一分野であるスティルト（西洋竹馬）の子ども向けワークショップの活動を始めました。スティルトとは、手を使わずに足だけで乗る竹馬のことです。竹馬と呼んではいますが、木材でできています。

「ココキタまつり」や、ココキタの隣にある豊島五丁目団地のお祭りなどでこのワークショップを実施し、地元の子どもたちに体験してもらえるようになりました。地元商店会の方のご協力もあり、子どもたちとスティルトに乗って衣装を付けてハロウィンパレードをする楽しい企画もこれまで2回開催しました。もともと日本ではまだ馴染みのない芸なので、このスティルトの子ども向けワークショップを行っているのはおそらく日本で我々だけです。ですがココキタ近辺にだけ妙にスティルトに乗るのが上手な子たちが増えてきている、という状況になっていますね（笑）

ココキタに入居してからの4年間で、3つの演劇作品と、ワークショップを作ることができました。レパトリリーとして再演をしていきたい我々にとって、大きな財産です。腰を据えて作品づくりに集中できる環境と、地元の方々との交流があってこそその成果だと思っています。



スティルトでパレード



「ダンボーレ!」

一度は設立30周年おめでとうございます。

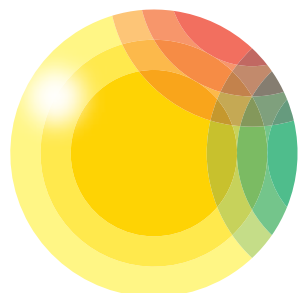
私たちはココキタにレジデンスアーティストとして入居して4年目になります。14年に知り合いの演出家の方から、北区に「ココキタ」というおもしろそうな場所ができるよ、と教えていただいたのがきっかけでした。

レジデンスアーティストになるまでは公共施設を転々としながら稽古をしていましたが、レジデンススペースという拠点を得たことでじっくりと制作や稽古に取り組めるようになりました。

最初に生まれた作品が、たくさんのダンボール箱を積み重ねた大掛かりな舞台装置の『ダンボーレ!』です。舞台装置を建て込んだ状態で継続的に稽古ができるので、今までにないアイデアがどんどん生まれました。この作品は「見えそうで見えないチラリズム演劇」というコンセプトで制作しました。17年に北区の観劇団体「きたく子ども劇場」で上演させて頂



文化芸術を暮らしの中に



- 文化芸術の鑑賞機会の提供
- 文化芸術活動の支援・育成
- 文化芸術の情報・魅力の発信

ホール事業・音楽など

まちかどコンサート

- COLUMN:「I LOVE♡北区」——中彩香能

スクールコンサート

北とびあパイプオルガン演奏会／王子カルチャーロード・ギャラリー

輝く☆未来の星コンサート

北区文化芸術祭

北とびあ演劇祭

- 豆知識：スタっちょ☆

北区第九演奏会

- 豆知識：北区第九合唱団って？

北区民オーケストラ／北区民混声合唱団

子ども文化教室

児童ダンス☆演劇教室

ほくとびあメンバーズ／北区文化情報紙(エンジョイ北区)の発行



【(仮称)彫刻アトリエ館】 2004年度

北村西望(長崎平和祈念像の作者)が
使用したアトリエで彫刻を



アトリエの様子

’01年8月に逝去した北区名誉区民・日本芸術院会員の北村治禱の「若手彫刻家の育成と彫刻芸術の普及をしてほしい」との遺志を踏まえ、遺族より寄付された西ヶ原のアトリエ(仮称 彫刻アトリエ館)を会場に彫刻教室を実施しています。コースは上級・中級・初級の3コースを設け、講師は日本芸術院会員・川崎普照、日展会員・清家悟が務めています。上級コースは区内外を問わず、制作の経験がある希望者を広く受け入れています。初級と中級コースは区民の芸術文化の振興を図るため、北区在住・在勤・在学者が対象です。各コースとも年間40回の講習の中で、モデルも入れた本格的な制作を行っています。

上級コースからは日彫展(日本彫刻会展覧会)出展はもとより日展の彫刻部門にも出展を果たし、プロへの道を目指す彫刻家の卵を輩出しています。

アトリエは毎年9月下旬からの一週間に一般公開され、室内外で北村西望・治禱親子の作品が展示されます。彫刻が生み出された空間の中で作品を鑑賞できる、貴重な機会となっています。毎回、区民だけでなく遠方からも見学者が訪れ、彫刻ファンを集めています。

豆知識

平和祈念像

長崎市平和公園内に置かれている高さ9.7mにもなる「平和祈念像」は、北村西望の代表作として知られます。北とびあの玄関前にも高さ2.4mの同作品があり、これは遺族と長崎市などの協力により建てられたレプリカです。また(仮称)彫刻アトリエ館が収蔵するものはオリジナルで、手に乗るほどのミニサイズです。

北とびあ玄関前 平和祈念像



【ホール事業・音楽など】 1988年度
●クラシック・ポップス・ジャズ・大衆芸能 親子向け公演など

熱くなったり、涙したり、
おもいっきり笑ったり…
心くすぐる公演を
あなたに！



在日ファンク・アワー 2015 in 北区 (2015.9.23)

高嶋ちさ子 presents
北とぴあクラシック

ジャズ

歌謡曲

ポップス

上映会

親子向け
公演

来場者の声

- “トークと楽器の説明は、毎回のことながら楽しい！” ——— 70代・女性
(17 高嶋ちさ子 presents 北とぴあクラシック vol.14)
- “娘には子どもの頃から音楽に親しんで、好きになってほしいと思います” ——— 30代・女性
(14 ズーランプラス 音楽の絵本)
- “久しぶりに心から熱くなった！” ——— 50代・男性
(10 アニソンBIG3)
- “息子に誘われて孫と三人できました。初めてでしたが、すっかりファンになりました” ——— 60代・女性
(09 夏川りみデビュー10周年 歌さがしの旅)
- “3歳の男の子の初コンサートでしたが、最後まで楽しくずっと聞いていました” ——— 40代・女性
(18 H ZETTRIO LIVE! ～おやこの日スペシャル～)

主催公演

北とぴあのさくらホール・つつじホールを中心に、伝統芸能や大衆芸能、音楽はクラシックからポップス、ジャズ、アニメソングまで幅広く実施しています。

クラシックをより身近に…をテーマにした「高嶋ちさ子プレゼンツ北とぴあクラシック」は、'02年からシリーズ化しており、「今年はいつチケットが発売になるの？」と待ち望む声が聞こえてきます。それに続けと、19年にフォルテピアノ奏者の「小倉貴久子と巡るクラシックの旅」がスタート。新しいシリーズ企画が生まれています。

15年には浜野謙太率いるバンド・在日ファンクの初のホール公演を実施し、来場者全員が2時間スタンディングする盛り上がりを見せました。

毎年、親子を対象とした公演も開催しており、動物たちに扮して演奏をするクラシックコンサート、あつと驚く科学実験ショー、ステージ全体を使ったダイナミックな人形劇など、多彩なラインナップを展開しています。



東京大衆歌謡楽団コンサート ～昭和初期の名曲を唄う～ (2017.7.22)



奥田弦ジャズワールド (2017.6.4)



FUNKIST LIVE in 北とぴあ ～地元凱旋パレード～ (2013.6.29)



築100年の旧古河庭園・洋館で聴く
コトリンゴ×ビューティフルハミングバード洋館プレミアムコンサート (2017.1.20・21)



宇崎竜童 弾き語りLIVE2018 JUST GUITAR JUST VOCAL (2018.10.19)



松山バレエ団「シンデレラ」スペシャルハイライト
© エー・アイ／撮影・平井晋之介 (Shinnosuke Hirai) (2018.6.2)



大英博物館古代エジプト展 関連文化講演会 (2012.6.26)



二期会オペラ研修所コンサート (2015.12.1)



東京ニューシティ管弦楽団ニューイヤーコンサート (2017.1.15)



よしとお笑いまつり in 北とぴあ 2019
～ひなまつりスペシャル～ (2019.3.3)



ナカハチ・オン・タイム #10
(2018.11.21)



北とぴあフランス祭
(2017.5.28)



亀山香能箏曲リサイタル
(2014.7.20)

共催・後援公演

多彩な文化・芸術に区民が触れられる機会を提供するため、様々な文化行事や公演の共催・後援も行っています。

北区で根強い人気を誇る演歌のコンサートでは、これまで北島三郎、石川さゆり、北区アンバサダーで作曲家の弦哲也をはじめ、演歌界を代表する歌手が舞台に立ちました。

12年「北とぴあフィンランド祭」ではフィンランドのハーモニカ・カルテット、スヴェングによるコンサートのほか、現地の家庭料理を作る教室や伝統装飾品を作るワークショップなどを開催。その後ケルト祭、フランス祭、インド祭と続いています。

また、15年には北区在住の東京ボーイズ・仲八郎プロデュースの「ナカハチライブ」改め「ナカハチ・オン・タイム」がスタート。落語・演芸・音楽等の分野から豪華ゲストを招いて、歌あり笑いありの贅沢なライブをお届けしています。

16年に開催した北区赤羽出身の人気バンド・エレファントカシマシの25周年ツアーは、北とぴあを皮



しまじろうコンサート おとぎのくにの
だいほうけん (2013.2.11)



千住真理子 ヴァイオリンリサイタル
(2012.6.2)

切りにスタートし話題を集めました。

「きたく子ども劇場」「城北演劇を観る会」などの鑑賞団体とも共催し、バラエティに富んだ演劇も定期的に上演しています。

そのほか、講演会、バレエ、オペレッタなど、幅広い層の区民に親しまれるジャンルの公演実施や、北区ゆかりのアーティスト・団体との連携を通じて、主催の事業を補完しながら北区の文化・芸術を一丸となって盛り上げています。





【まちかどコンサート】1999年度〜

ふと道を曲がったその先で、 一流の音楽が

楽しめるまちに…

毎月区内の公共施設へ出向き、プロの演奏家によるコンサートを実施しています。始まりは「北とぴあ国際音楽祭」とともに古楽の普及が目的でしたが、事業開始の翌年からは様々なジャンルに親しんでもらえるよう、邦楽や世界の民族音楽、今では子ども向けファミリーコンサートなども実施しています。

まちかどコンサートでは公募で集まった区民ボランティアが活躍しており、出演者の選定から当日の会場設営、来場者対応、演奏会の司会まで行っています。音楽の素晴らしさをより多くの人に伝えたい……ボランティアと当財団の思いは一緒です。



箏線にふれるアルバの響き〔2012.3.18 中央図書館〕



お客様を接客

ボランティア研修

音楽好きであれば
楽しくボランティア
できますよ！
ぜひ一緒に！

鵜飼さん

ボランティアの醍醐味は
「次回はぜひ」と
聞かれること！お客様に
喜んでいただいているのを
実感します。

加藤さん

北区は私の故郷です。北区で生まれ育ち、邦楽演奏家として活動を始め、今も北区に在住しています。どこにでもアクセスしやすく生活しやすい街、こんなに住みやすい北区からはもう離れられません(笑)そしてこの愛すべき北区で演奏活動をさせていただいていることをとても幸せに思っています。

北区文化振興財団さんとの出会いは「まちかどコンサート」にお声がけいただいたことがきっかけでした。地元の方々に自分の音楽を聴いていただける喜びは格別です。そこから北区スクールコンサートにも私の所属するユニット『三味線なでしこ』として呼んでいただくようになり、未来ある子供達に日本の音楽を紹介しています。地元に関わりたいという思いをずっと持っていたので、今では北区の0歳〜ご年配の方まで音楽を通して関わることができてとても光栄です。財団の方々にも大変良くいただき、仕事のことでなくお悩み相談に乗っていただいたりとプライベートでまでお世話になっています。さすが、

あたたかい街・北区の誇る財団さんです！これらがキッカケとなって北区での色々な活動に声をかけていただけるようになりました。北区で活躍する人を紹介するJ:COMの「東京北人図鑑」出演、北区アンバサダー・弦哲也先生の「北区の演歌座」出演など、北区で幅広く活動できるようになったのも財団さんのおかげです。今後の目標としては北区の誇る最高の劇場、篠原演芸場での和楽器コンサートを成し遂げたいと思っています。その際はぜひ財団さんにもご相談させていただけたらと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします！

こうして今、私が北区で活動できているのも財団さんのおかげです。その財団さんが設立30周年ということでなんと私と同世代！（四捨五入して…笑）色々と運命を勝手に感じておりますが、これからも北区のために更に発展していったらと心から願っています。そして今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

30周年、誠にありがとうございます！

COLUMN

I LOVE
♥ 北区



なか あ や か の
中 彩 香 能
邦楽演奏者

【スクールコンサート】2005年度〜

学校がコンサート会場に 未来を担う子どもと、

舞台芸術の出会い

子どもたちが気軽に文化芸術に触れるきっかけづくりとして、北区立の小・中学校でスクールコンサートを実施しています。演奏やパフォーマンスを間近で見ることができ、子どもたちは歓声を上げたり、身を乗り出して見たりと、劇場やホールよりものびのびと鑑賞しています。声楽や吹奏楽などクラシック音楽から、アフリカ音楽やインドネシアのガムランなど民族音楽、箏や三味線などの邦楽、伝統芸能である歌舞伎や狂言、さらには演劇やダンスなど

25を超えるプログラムを用意しています。現在ではほとんどの小・中学校で毎年実施しており、子どもたちも先生方も楽しみにしている行事の一つとなっています。'14年からは区立保育園・幼稚園でもプレコンサートとして音楽を中心にスクールコンサートを実施しています。小さい年齢から音楽

に触れることで感性を豊かにしてもらいたいという思いのもと、ヴァイオリンなどの室内楽や歌など6種類のプログラムを用意しています。'17年からは未就学児が通うこども発達支援センター「さくらんぼ園」でも行い、より多くの子どもたちが芸術に触れる機会を提供しています。



三味線アンサンブル〔2018.6.14 上十条保育園〕



音楽とダンスパフォーマンス〔2017.5.2 王子第一小学校〕

声楽とヴァイオリン〔2018.6.1 うめのき幼稚園〕

音楽とダンスパフォーマンス〔2018.3.3 堀船中学校〕

ガムラン〔2018.5.14 稲付中学校〕

アフリカ音楽〔2018.6.15 赤羽西保育園〕

金管・打楽器アンサンブル〔2018.6.16 王子第二小学校〕



世界を目指す高校生

【輝く☆未来の星コンサート】

2008年度

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校（藝高）の協力により、優れた演奏技術と向上心を持った同校の生徒を北区に招いて、年3回のコンサートを開催しています。

毎年10月には北とぴあ・さくらホールで、藝高による合唱、オーケストラと、北区の小中学生の金管バンドや吹奏楽部が演奏するジョイントコンサートを開催。練習の成果を発揮したエネルギーあふれる演奏を届けています。

17年の「輝く☆未来の星コンサート」では第10回開催記念の特別企画として合唱の名曲「大地讃頌」を取り上げました。作曲者である佐藤眞の指揮で藝高オーケストラが伴奏をし、合唱団には藝高生と、区内3校の中学生たちが参加。総勢300人が同じ舞台上に立ち、壮大な共演が実現しました。

第10回輝く☆未来の星コンサート〔2017.10.9〕 出演者全員で「大地讃頌」



輝く☆未来の星アカンサコンサート〔2018.11.22〕

生徒の手作りプログラム

毎年7月と11月には滝野川会館ならびに北とぴあを会場に、室内楽のコンサートを開催で行っています。藝高内で開催される「アカンサコンサート」から選出された、実力派4〜5組のグループが出演します。藝高の生徒たち自身で作成したプログラムは曲目解説にイラストなども盛り込まれ、わかりやすく楽しい内容になっています。演奏曲紹介のMCも若さと個性にあふれ、クラシックの中でも数居が高いと思われがちな室内楽の作品を親しみやすく聴ける機会として、多くの区民に喜ばれています。



北とぴあを感じるコンサート

【北とぴあパイプオルガン演奏会】

1995年度



マナ オルゲルバウ製
1990年建造
パイプの数は802本

パイプオルガン演奏会〔2015.12.11〕



パイプオルガン&ヴァイオリン〔2017.12.10〕

月に一度、北とぴあ1階区民プラザに常設しているパイプオルガンを用いて行う、無料のロビーコンサート。95年に始まり、300回を超える演奏会を重ねてなお、区民に親しまれ続けている演奏会です。パイプオルガンの荘厳な音色が響くと、北とぴあはいつもとは違う厳粛な空気に包まれます。

パイプオルガンのソロだけでなく、ほかの楽器や声楽とのアンサンブルも実施しています。

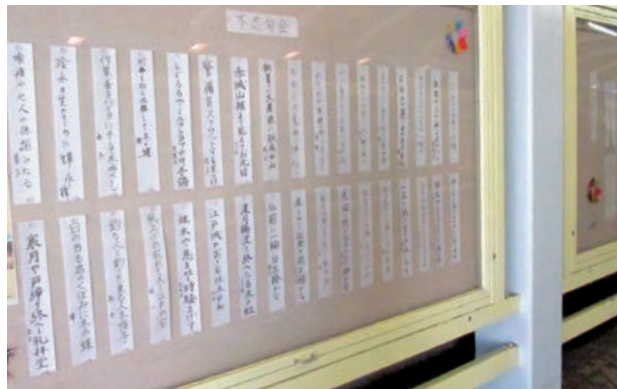
高架下に 区民の力作が ズラリと並ぶ

【王子カルチャーロード・ギャラリ】

1988年度

JR王子駅北口の高架下通路に22個の展示用パネルケースを設置しています。無料で貸し出しを行い、絵画・写真・絵手紙・俳句など、主に区民のみなさんの趣味や手作り作品の発表の場として利用されています。2週間ごとに入れ替わる作品を楽しみにしている方も多く、時には足を止め、見入っている姿も。

通りすがりに気軽に楽しめるギャラリとして、街の一角に彩りを添えています。



展示風景



【北区文化芸術祭】
1988年度
年に一度の大舞台で
区民が躍動する



バレエ & モダンダンス



美術展



美術手工芸展



陶芸展



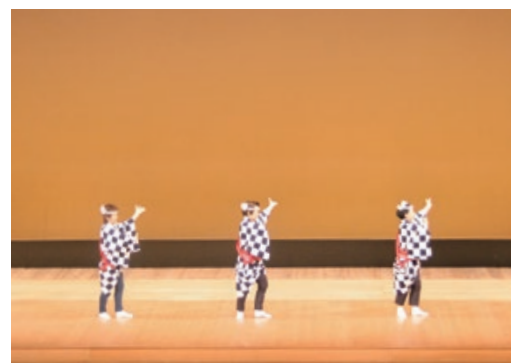
茶華道展（華道）



将棋大会



珠算大会



民謡舞踊大会



謡曲大会



吟剣詩舞大会

多くの区民や文化団体が区内施設を拠点として、自主的に文化芸術活動を行っています。その発表の場として毎年秋に開催されているのが「北区文化芸術祭」です。各分野ごとに区内の文化団体の連合組織が主催として、北区と当財団が共催し実施しています。

以前は「北区文化祭」と称して各団体の催しを行っていましたが、参加団体の透明性・公平性を図り、新規の団体を入れるため、15年に「北区文化芸術祭」と名称を変え要綱も刷新して、新たな門出を迎えました。

文化芸術祭には無料で参加・観覧できる発表会や、区民の参加者を募る競技会や展覧会があります。18年は約1カ月間にわたり、15種目の大会や展覧会が行われました。北とびあ内のホールなどを会場に、普段の練習の成果を存分に発表できる場となっています。



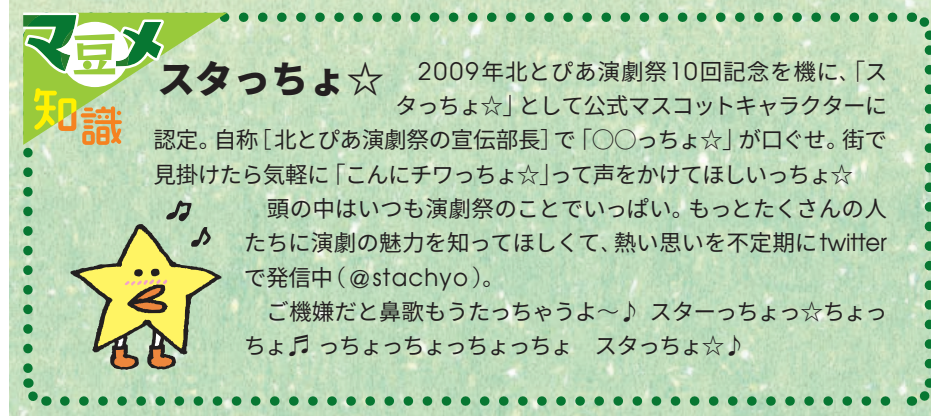
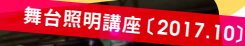
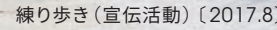
日本舞踊大会



合唱祭



茶華道展（茶道）



最多動員賞受賞作品〔2018.10〕



北区第九演奏会〔2017.12.3〕

【北区民オーケストラ】

1988年度〜

演奏を通じて深まる絆



練習風景

音楽を通して区民文化の交流・発展を図ることを目的に設立した、区民で構成されたオーケストラ。毎年春の恒例となった定期演奏会のほか、区内の小学校に赴き演奏する「小さな音楽会」、小編成による「室内楽コンサート」を開催しています。

16年の第30回定期演奏会では、ピアニスト・迫昭嘉を迎え、ベートーヴェン「ピアノ協奏曲第5番『皇帝』」を披露。拍手喝さいを浴びました。また同年より「秋のコンサート」がスタート、さらに「北オケ」の音楽に親しんでもらえるよう、定期演奏会とはまた違った趣向を凝らしたコンサートを実施しています。



北区民オーケストラ 第32回定期演奏会〔2018.5.30〕

【北区第九演奏会】

1992年度〜

皆で創りあげる楽しさを
舞台に立つ喜びを

区民から要望を受けてスタートした演奏会。毎年公募により集まった区民合唱団と、在京のプロオーケストラ、指揮者・ソリストらを迎えて、12月にベートーヴェンの「交響曲第9番『合唱付き』」をお届けしています。

合唱団員は7月から毎週トレーニングの指導を受け、合唱部分の「歓喜の歌」の練習を重ねて本番に臨みます。団員の中には'92年の第1回目から参加している方も！本番を終えた合唱団員の表情はキラキラとしていて、まさに「歓喜」に満ちあふれています。



練習風景

北区第九合唱団って？



10代から80代後半までの第九好きの北区民が、毎年200人ほど参加しています。年齢層はちょっと高め、団員の年齢を足すとなんと10073歳！楽譜の文字が小さくて読めない！と嘆くこともありますが、第九の合唱に対する熱意に年齢は関係ありません！

近年、男声は「貴重」な存在となりつつあり、区外からもご応募いただき、本番に向け一致団結しています。

【北区民混声合唱団】

1990年度〜

心に届け！ハーモニー



心に届け！ハーモニー

北区内で初めて設立された混声合唱団。毎年6月の定期演奏会のほか、都内・区内の合唱祭にも積極的に参加し、研鑽を積んでいます。曲のレパートリーは古今東西の合唱曲から、ポップス&歌謡曲の

ヒットソング、'06年から常任指揮者を務める名島啓太や団員が手掛けた曲まで！合唱を志す区民の目標となる合唱団を目指し、日々活動中です。



北区民混声合唱団 第26回定期演奏会〔2016.6.26〕



練習風景



【子ども文化教室】

2005年度

伝統の技と 日本の心を伝える



日本舞踊

【講師】
松島金昇（北区日本舞踊連盟理事長）監修
花柳太之路（北区日本舞踊連盟理事）
藤間さくら女（北区日本舞踊連盟理事）



【講師】
五代目三遊亭圓馬（落語芸術協会会員・真打）

落語



雅楽

【講師】
笹本武志（雅楽演奏家）



【講師】
奥山峰石（人間国宝）監修
鈴木泰三（金工鍛金家）

鍛金

彫塑



【講師】
川崎普照（日本芸術院会員）監修
川崎義昭（日展会員）



子どもたちにとって日本古来の文化や伝統工芸、芸術に触れる機会になるとともに、技術を習得できるように1年を通じて「子ども文化教室」を開講しています。コキタを会場として、彫塑、鍛金、雅楽、落語、日本舞踊の5ジャンル7教室があります。日本舞踊は未就学児から、彫塑は小学1年生から、雅楽は小学4年生から、落語は小学5年生から、鍛金は中学1年生から受講が可能です。2年目以降の継続ができ、高校生まで学ぶことができるので、所作や技術などをしっかり身に着けることができます。17年3月までは言葉による表現力を磨くことができます。活動弁士教室も開講していました。



鍛金 制作風景



雅楽 練習風景



彫塑 制作風景



落語 練習風景



日本舞踊 練習風景



演劇とダンスを通じて、 子どもたちの運動能力と表現力を伸ばす

【児童ダンス☆演劇教室】

1998年度



発表会の様子〔2016.3.19〕



レッスン風景



大きな声で！

「タレントや子役を目指すのではなく、内気だったり引込み思案だったりする子どもが、ダンスや歌を通して活発になり、友達を作って楽しい時間を過ごしてもらいたい」との趣旨でスタート。

未就学児から小学生までを対象に、北区AKT STAGEの劇団員が講師となつて、週末にコキタのプレイルームなどで行われています。北区内外から集まった子どもたちは学校や年齢の壁を超え、全身で表現し、楽しんでいます。

1年間の集大成となる3月の発表会では、北とびあつつじホールの舞台で本格的な照明や音響と共に、ひとりひとりの子どもにもスポットライトが当てられます。

沿革・組織図 ほか



<https://kitabunka.or.jp/>

沿革・実施事業詳細、過去の理事・評議員・監事は
北区文化振興財団ホームページでご覧ください。

<https://kitabunka.or.jp/>

北区文化振興財団

検索

沿革

理事・評議員・監事 一覧 / 組織図

2008～2018年の間に終了した定例事業

北区文化振興財団設立30周年記念事業
区民とともに歩んだ30年、これまでも これからも

文化芸術を
暮らしの中に



【ほくとぴあメンバーズ】 1993年度～

芸術をもっと身近に！

興味・関心を広げよう！

北とぴあの公演へもっと気軽に足を運んでほしいとの思いから始まった、友の会制度です。クラシック、演劇、落語、親子向け公演など年間60以上の公演を取り扱っており、会員には先行予約やチケット価格の割引などの特典があります。お気に入りのジャンルをとことん楽しむ方や、「新たな発

見をしたい」と様々な公演にご来場いただく方など、利用の仕方は人それぞれ。現在、専用電話にて予約を受け、無料でチケットを郵送するシステムを導入しています。現代の生活様式に合わせ、より快適に利用できるサービス提供に努めています。

【北区文化情報紙(エンジョイ北区)の発行】

1988年度～

北区を楽しむ、
北区で喜ぶ…

そんな意味が込められた
情報紙

当財団では設立当初から北区文化情報紙を発行しています。「コンパス」「北とぴあ情報缶」とタイトルを変え、'05年に内容を刷新して現在の「エンジョイ北区」と

なりました。北とぴあのみならず、滝野川会館や赤羽会館、篠原演芸場、王子小劇場などのイベント情報も集約。区民が文化・芸術と親しむきっかけとなるような紙面を目指しています。



「エンジョイ北区」は区内施設、各駅などのラックに配架しているほか、新聞折込やコンサートご来場のお客様に配布しています。発行部数は13万部という広報メディアです!!

校正の時に必要な
三種の神器



カレンダー
日付と曜日が
合っているか確認
するときに活躍!

赤ペン
太さが様々な
赤ペンを使い
分けます。

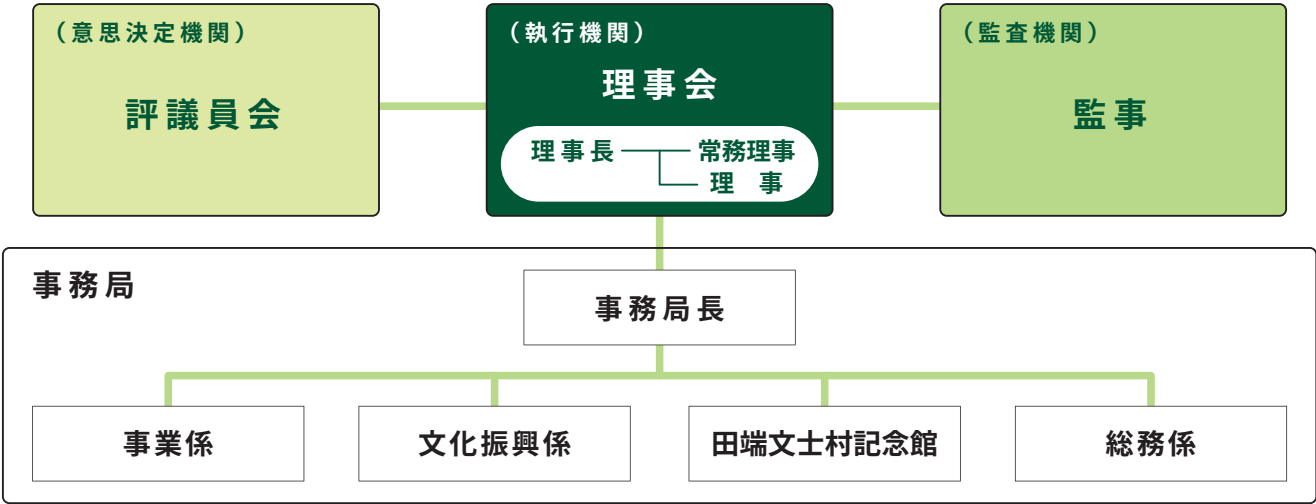
修正テープ
消費量が半端ない!

理事・評議員・監事 一覧

〔2019.2 現在〕

分類	氏名	所属・役職等
理事長	依田 園子（よりた そのこ）	東京都北区副区長
常務理事	浅川 謙治（あさかわ けんじ）	東京都北区地域振興部長
理事	伊藤 洋（いとう ひろし）	早稲田大学名誉教授、演劇博物館顧問
理事	北島 裕子（きたじま ひろこ）	画家、(一社)示現会委員
理事	名取 三郎（なとり さぶろう）	(株)なとり 代表取締役会長兼社長
理事	船山 信子（ふなやま のぶこ）	音楽学者、前上野学園大学学長
理事	松島 金昇（まつしま きんしょう）	日本舞踊家、北区日本舞踊連盟理事長
評議員	井上 潤（いのうえ じゅん）	(公財)渋沢栄一記念財団 渋沢史料館館長
評議員	加藤 貴（かとう たかし）	北区文化財保護審議会会長、早稲田大学講師
評議員	齋藤 邦彦（さいとう くにひこ）	北区町会自治会連合会常任理事
評議員	清正 浩靖（せいしょう ひろやす）	東京都北区教育長
評議員	竹腰 雅子（たけこし まさこ）	北区男女共同参画推進ネットワーク
評議員	水越 乙彦（みずこし おとひこ）	(公社)王子法人会会長
評議員	森岡 謙二（もりおか けんじ）	(公社)二科会評議員、前北区教育委員
監事	大竹 雅訓（おおたけ まさのり）	公認会計士、税理士、大竹雅訓税理士事務所
監事	道本周 作（みちもと しゅうさく）	弁護士、北区法律相談員、六法法律事務所

組織図



沿革

〔2019.2 現在〕

西暦	月	内容
1988	4	財団法人北区文化振興財団 設立
1988	10	北区文化芸術祭 開始（北区教育委員会より移行）
1988	11	北区民オーケストラ 結成
1988	11	北区文化情報紙 創刊
1989	1	王子カルチャーロード・ギャラリー 開設
1989	11	北彫展 開始
1990	2	きたくなるまち区民寄席 開始
1990	8	北区民混声合唱団 結成
1991	3	北とぴあ若手落語家競演会 開始
1991	7	松竹大歌舞伎 開始
1992	12	北区第九演奏会 開始
1993	2	芥川龍之介 生誕百年記念展 開催
1993	11	田端文士村記念館 開館
1994	1	ほくとぴあメンバーズ 発足
1995	4	北とぴあパイプオルガン演奏会 開始
1995	10	北とぴあ国際音楽祭 開始
1996	4	田端文士村記念館 田端ひととき散歩 開始
1998	4	児童ダンス☆演劇教室 開始
1999	1	まちかどコンサート 開始
2000	10	北とぴあ演劇祭 開始
2004	4	(仮称)彫刻アトリエ館 管理運営 開始
2005	4	スクールコンサート 開始
2005	10	子ども文化教室 開始
2008	7	輝く☆未来の星コンサート 開始
2008	9	北とぴあ国際音楽祭2007 モンテヴェルディ作曲《オルフェオ》で第6回佐川吉男音楽賞を受賞
2010	3	北区所蔵美術品展示 開始
2012	4	公益認定を受け公益財団法人北区文化振興財団となる
2013	5	ほくとぴあ亭1000円落語 開始
2013	9	北とぴあ国際音楽祭2012 M.-A.シャルパンティエ作曲 音楽付きコメディ《病は気から》で第10回三菱UFJ信託音楽賞奨励賞を受賞
2014	8	舞台芸術創造支援事業 開始
2015	5	北区文化芸術活動拠点 ココキタ 開設
2016	2	ココキタまつり 開始
2017	9	北とぴあ国際音楽祭2016 モーツァルト作曲《ドン・ジョヴァンニ》で第14回三菱UFJ信託音楽賞奨励賞を受賞
2018	4	北区版アーティストバンク 発足
2018	4	設立30周年を迎える

※事業開始時点の事業名が現在と異なる場合は現在に統一。
※終了した定例事業については除外。

北区文化振興財団設立30周年記念事業

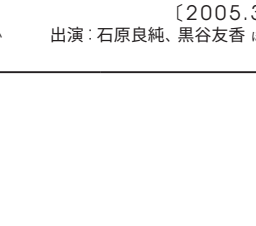
区民とともに歩んだ30年、これまでも これからも

北区文化振興財団は2018年で設立30年を迎えました。平成の元号とともに歩んできた30年の感謝の意を含め、さまざまな記念事業を開催しています。北とぴあ国際音楽祭では身体表現を得意とする演出家・小野寺修二がオペラ初演出。寺神戸亮の指揮でモンテヴェルディ作曲のオペラ《ウリッセの帰還》を上演しました。ほかにもホール事業では、日本舞踊の新たな形を表現した「弧の会」公演、古典・新作も演じる名人・柳家喬太郎が大トリをつとめた区民寄席、大人気ピアノトリオH ZETTRIO による親子ライブ、田端文士村記念館では文学研究者を招いた芥川龍之介シンポジウム、北彫展では、北村西望などの物故者の特別展示を開催しました。

北区文化振興財団ではこれからも文化を通じて、区民の皆様の暮らし向上、北区の発展に貢献するため変わらぬ思いとともに、たゆまぬチャレンジを続けてまいります。



2008～2018年の間に終了した定例事業

青年音楽フェスティバル (通称ONフェス)	1980～2011年度	親子写生大会 母の日、父の日絵画展 きたくなるまち水彩画展	1989～2014年度 2001～2014年度 2004～2014年度
おやじバンドフェスティバル	2007～2011年度		
星空投影会	1990～2013年度	北とぴあ能(能楽公演)	1991～2009年度
			
北区つかこうへい劇団の運営		1994～2011年度	
「今の日本演劇界は、劇場(ハード)ばかり建って肝心の劇団を育てていく土壌がない。劇団というソフトを作りたい。」というつかこうへいの考えの下、北区つかこうへい劇団は、演劇人を養成し演劇界の発展に寄与するとともに、北区を活性化することを目的に設立。北とぴあや滝野川会館、田端文士村記念館などで公演を実施してきました。2010年7月つかこうへい逝去により、翌年劇団も解散しました。		「北区文化振興財団設立20周年記念誌」より再録 北区つかこうへい劇団と私 つかこうへい 東京都北区JR田端駅の近くに「田端文士村記念館」がある。閉館後、北区つかこうへい劇団は、稽古場として使わせてもらっている。そしてここでは、「田端文士村記念館500円劇場」というのをやっている。(略) かつて、石原良純、阿部寛、内田有紀、小西真奈美などがこの場所で、稽古をしていた。数年前、黒木メイサが劇団にきたのは、彼女が中学2年生の時である。一月半ほど、文士村記念館で500円劇場『平壤から来た女刑事』をやっていたのだが、この装置なし、衣装なし、照明なし、というのに驚いていた。彼女は、演劇というものは、きらびやかな衣装を身にまとい、豪華なセットがあり、色とりどりの照明に照らされるものだと思っていたのだが、演劇というのは役者自身のパッションによって観客を魅せるものだ。100回稽古するより、1回の本番が役者を伸ばす。そして、偶然某TV局のプロデューサーが見に来ていて、目をとめて、今の黒木メイサがあるといっても過言ではない。(略) 客までの距離が1メートルもなく嘘の芝居をやるのが好き。本物だけが生き残る。	
 つかこうへい (劇作家・演出家)		 つかこうへい (劇作家・演出家)	
 出演：阿部寛、内田有紀 ほか		 文士村500円劇場(2004.3) 出演：黒木メイサ ほか	
 出演：石原良純、黒谷友香 ほか		 出演：石原良純、黒谷友香 ほか	

公益財団法人 北区文化振興財団 設立30周年記念誌 **これまでも これからも**

2019年 3月 発行

発行／編集 公益財団法人 北区文化振興財団
〒114-8503 東京都北区王子1-11-1 北とびあ10階
TEL：03-5390-1223／FAX：03-5390-1147
URL：https://kitabunka.or.jp/

デザイン 中川朋樹（デザイン室 門）
印刷製本 冊子印刷ドットコム